

浜かいどう

第24号

2023年(令和5年)1月1日
発行 一般社団法人
茶道裏千家淡交会いわき支部
いわき市泉玉露3-13-15
伊東宗恭方 ☎0246-96-5232
編集 総務委員会



年頭のご挨拶

いわき支部長

伊藤 博人



年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大とロシアのウクライナ侵攻で世界中が翻弄され、多くの方々が不安やストレスを抱きながらの生活でした。

我が国においても、これまでにない円安、物価高ということで、今後、社会・経済への影響が心配されます。

振り返りますと、三月十六日 福島沖震度6強地震で新地町、相馬市、南相馬市においては特に甚大な被害が発生しました。会員の方々の中には、令和二年十月の台風十九号、令和三年二月の福島県沖震度5強地震と三年連続被災された方々がおられました。心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧復興を願うばかりです。

三月以降行動制限が解除され、感染防止対策対応で三年ぶりの支部茶会、青年部茶会ははじめ、五回の研究会、師走の月釜茶会、ふだん着の茶会等々再開され、多くの方々とお会いでき、至高の喜びでした。

日常的な当たり前のことを出来ることがこんなに幸せなのかと感銘を受けた茶会でした。コロナ禍での開催とい

うことで、大変な苦労があったことと存じます。幹事長はじめ役員、担当されました会員、関係者各位のご尽力に衷心より感謝申し上げます。

三月二十八日 今日庵 名譽師範親授式において、坐忘齋お家元より、船生宗敏先生と佐藤宗香先生が名譽師範を拝受されました。永年に亘り裏千家茶道に精進し、後進の指導と支部発展に尽くされ、同門の模範となるものがあります。この功績を称える名譽師範の拝受、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。今後ともこれまで同様、ご支援ご協力の程よろしくお願い致します。

今後、新型コロナウイルス感染症の終息は不透明ですが、コロナ禍でも何かやり方を変えて出来ないか、皆で知恵を出し合って事を進めて行きましょう。会員の皆様が身近な幸せを実感しながら、いきいきと楽しく、活動出来る茶会を目指し、諸事業の推進に取り組んで頂きたいと存じます。

結びに、皆様にとって以前のように自由に過ごせる日常を取り戻し、「飛躍」できる年になることを念じて新年の挨拶といたします。

年頭のご挨拶



いわき市長
内田 広之



令和五年の年頭にあたり、謹んで御挨拶を申し上げます。

一般社団法人茶道裏千家淡交会いわき支部の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により様々な活動が制約される中であっても、茶道文化の継承、発展のため、諸種の調査研究に励まれますとともに、「ふだん着のお茶会」の開催など、市民の皆様様に「茶道」という日本の伝統文化に親しむ機会を提供くださり、本市の文化・芸術の振興に多大な貢献をされておりますことに、心から敬意を表します。

日本の心である「茶道」は、古来の風習や習慣を継承し、芸術性や社交性、精神性などを融合した総合芸術であり、美しい心得を感じられる日本が世界に誇る伝統文化です。また、茶道における「一期一会」の精神は、コロナ禍において希薄となっている人と人との出会いが、いかに大切かを思い出させてくれます。

市といたしましては、豊かな文化に親しみ、それを未来に継承し、発展させ、誰もが誇りと愛着を持てる文化芸術のまちづくりを推し進めてまいります。また、昨年11月に策定した「いわき版「骨太の方針」のもと、次世代

を育て、命・暮らしを守り、まちの魅力を高める施策を推進し、「人づくり日本一」の実現を目指します。皆様には、引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人茶道裏千家淡交会いわき支部のますますの御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心から祈念いたしまして、新年の挨拶いたします。

年頭のご挨拶



副支部長
村田 裕之



新年あけましておめでとうございます。

昨年三月に発生した福島県沖地震では、最大震度六強の強い揺れを観測し、甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた皆様方には心よりお見舞い申し上げます。

昨年コロナ禍の一年でしたが、ウイズコロナの考え方のもと、「行動制限」が各地で緩和され、当支部においても「支部茶会」等の行事が再開されました。まだまだ感染者も多い状況ではありますが、一日も早く平常に戻れるよう願っております。

さて、昨年九月に静岡にある「ヘリヤ商会」という会社を子会社にしました。ヘリヤ商会は日本で最も古い日本茶輸出業者です。一八六七年（慶應三

年）創業者フレデリック・ヘリヤ氏が長崎の「オルト商会」（のちのヘリヤ商会）の支配人だった叔父のハント氏を頼って来日したのが始まりです。オルト商会は一八五六（安政三年）に大浦啓に茶を発注し、一八五九年（安政六年）には六トンほど輸出した会社で、坂本龍馬のために武器を輸入していたようです。ヘリヤ商会の社長は日本茶輸出組合の副理事長で、世界各地で日本茶の啓蒙活動をしており、国際会議に出席したこともあります。彼はお茶に関しては百科事典のような人です。話し始めると何時間でもお話をなさいます。このような縁ができたのも、私がお茶にかかわるようになったからであろうかと、改めてお茶のご縁に感謝しておるところです。

文末に皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶



副支部長
田村 哲朗



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えください。

えのこととお慶び申し上げます。昨年、行動制限は解除されたものの、新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響で各種行事の自粛を余儀なく

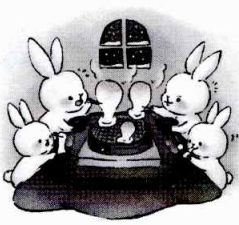
された一年でありました。淡交会も一部行事の中止をせざるをえなく我慢の一年であったと思います。

また、ロシアによるウクライナ侵攻や、世界経済の影響による物不足や物価高騰は、私たちの生活と海外の出来事が直結していることを再認識する年でもありました。

数年前より仕事で海外へ行く機会が増えました。昨年もコロナ禍の合間をぬってドイツ、アメリカ等に行っていました。海外に行くことで日本の歴史や文化を振り返る良い機会となります。淡交会の一員とさせていただきます。学びの機会を頂いていることに感謝いたします。

都市部を中心に全国でコロナの感染が再拡大するなど、いまだ収束が見通せないものの、重症化のリスク低減に際して、今年こそは日常の生活に戻れるよう願うばかりです。

まだまだロシアのウクライナ侵攻等、先の見えない状況ではありますが、今後とも、諸先生方のご指導をいただきます。支那の発展のため微力ではありますが、支那が尽力できればと思っております。最後にになりましたが、皆様の今年一年のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。



年頭のご挨拶

幹事長

伊東宗 恭



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

併せて日頃から支部活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げますと共に、本年も引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、新型コロナウイルスという未知の感染症の発症により生活が一変し、三年が経過いたしました。未だ収束の見通しがつかない状況にあります。

コロナ禍により人との会話・飲食・会食がしにくい状況が生じ、なかなかお稽古が思うようにできない時期がありました。そのような時、オンラインでお家元様自らがお講義を担当され、業跡先生によるお点前、そして講話が配信され現在も継続配信されております。さらには各服点を公表され、支部の研究会でも業跡先生よりご指導を頂く機会がありました。このようなことから、時期をとらえて工夫し実践することの大切さをお教えいただきました。

昨年のいわき支部活動状況を振り返ってみますと、ここ数年のいわき支部の会員数は残念なことに減少傾向にあり

ます。一方、現在の状況からはコロナ禍以前同様のお稽古、お茶会、お茶事等の活動は困難な状況下にあります。これらの課題に対応するため、従来の流れを大切にしながらも時代にあつた新たな展開をすべくデジタル化の推進について、役員会で検討を重ねております。

いわき支部の益々の活性化を図るためには、若い方々の力が大いに必要になるかと思えます。また、人生経験の豊富な年代の方々にもアプローチし、茶道を楽しむきっかけを掴んで、以後の豊かな時間を新たな気持ちで送ることの大切さに気づくようなことを試みる必要があるかと思えます。

このようなことから、茶道人口の増加を図るため、いわき支部のホームペー

ジを開設し、広くお茶に関心のある方々に淡交会いわき支部の組織の周知、また、活動状況を自由に検索して関心をもつていただくきっかけをつくるなどを目的に、鋭意、策定事務に取り組んでいるところですが、実施するまでには今少し時間を要する見通しでございます。

また、身近なところでは、社会情勢の変化に伴い郵便物の配達が場合によっては日数を要するようになったことなどから、各幹事が担当する各種事務の連携、スピードの向上、加えて、事務連絡等など、メールの活用により事務の簡略化を図り、併せてペーパーレス化に努めるなど小さな一歩を踏み出したところではあります。

各種事業につきましては、感染防止対策に配慮しつつ創意工夫のもと、事業展開できましたことは今後の活動の励

みになりました。

特に支部茶会は薄茶一服のお席ではありましたが、会員が一堂に会しお茶を介しての会員同士の交流に、笑顔があふれる一時を楽しむことができたことは大変意義のあることであつたと思っております。これもひとえに担当された先生方のご努力による賜物とこの場をお借りして御礼申し上げます。

本年八月には、福島県四支部合同主催いわき支部により、定期巡回講演会を開催する予定で準備を進めているところでございます。その折には、多数のご参加をご期待申し上げます。

今後もしばらくの間、コロナ禍の中の支部活動は困難な状況が続くと予測されますが、その都度状況をみて判断し、取り組んでいくことが必要ではないかと思っております。

皆様方のご理解ご協力の程どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年の干支「癸卯」は、一説には寒気が緩みそろそろ希望が芽吹く年といわれております。

新しい年が会員皆様方にとりまして、健やかで良き年となりますよう、心よりご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

三年ぶりの支部茶会

矢内 宗 繁

お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。コロナ感染状況は相変わらずとどまることを知らないよう非常に困ります。

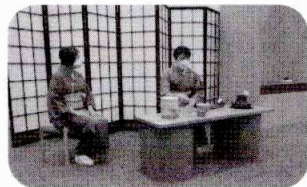
このような中で昨年七月、三年振りの支部茶会を開催できました。猛暑の



日でしたがお忙しい中をおいで下さった支部長様、副支部長様方始め大勢のお客様には心から感謝申し上げます。以前のような濃茶薄茶二席とはいかず、濃茶一人一席は大変難しいと感じ、茶会役員の総意で薄茶二席となりました。そもそもコロナの状況を見ながら開催できないことも視野に入れてギリギリまで決断できずにおりました。やるからには一人でもコロナ感染者が出てはいけなと、でき得る限りの対策を致しました。

濃茶担当は、あまり皆さんの目につけることのない青年部所有の「無限棚」をお借りして立礼を行いました。数茶碗も使い回しをしないというので全て支部備品をお借りしましたが、二百個は圧巻でした。前日には先生とお社中の方々が大勢で一生懸命準備をして下さいました。お茶をなさっている方は皆さん真面目で前向きで、目の前のことを何とかしようと真剣に努力されているお姿には敬服致しました。

当日は予想を超える人数のお客様においでいただき感激でした。夏の風情でおもてなしをしようというつもりでしたが、涼やかさを感じていただけました。片付けも皆さんのお力で早かったこと。二百個のお茶碗の手入れも数人の方々がご尽力下さり、お茶会は皆さんの力の結集で成立することを改めて認識した次第です。



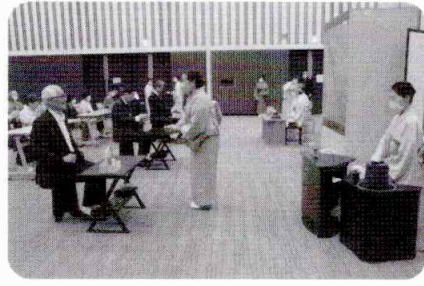
今年も支部の行事として計画はされておりますが、コロナの影響があまりなく開催されることを、そして一日も早く落ち着いた日常が戻ることを願ってやみません。

おいで下さったお客様、ご苦労された担当の皆様誠にありがとうございます。

本年も皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

支部茶会

小野 宗賀



七月三日ラ
トブに於いて、
二年ぶりの支
部茶会が行な
われました。

一月より、
矢内参与兼監
事・柳内副幹
事長をトブに
打ち合せを
重ねて参りま
した。コロナ
ウィルス感染
の状況が落ち
着かない中で
開催できる
のかから始め
り、安全に行
うための対
策を練ってき
ました。

その中で例年の濃茶薄茶一席ずつでは客席等が密になるということで、残念ながら薄茶一服となりました。

しかし、少しでも楽しんで頂けるように、道具立て、お点前は二席分準備、お菓子も主菓子、干菓子と用意致しました。また、感染対策を考え、支部所有の数茶碗を全て使うことで、お客様

一人に一つの茶碗使い切りとなりました。異例尽くしとなりましたが、前日の準備から当日の水屋は、久しぶりの茶会にいつも以上の活気にあふれていたように思います。無事に開催することが出来たこと、支部の皆様感謝申し上げます。

後日ですが、席主の先生お二人と担当で、数茶碗の後片付けがありました。皆様より少し長く支部茶会を楽しませて頂きました。

有難うございました。

以前のようなお茶会が出来て来るようになることを念じ、拙い報告とさせていただきます。



水無月月釜を 開催して

いわき青年部 部長

多賀 裕子

六月二十六日(日)に行われた青年

部主催の月釜は青年部にとって約三年半ぶりの開催でした。

テーマは「夏越の祓」とさせていただし、待合には部員手作りのミニチュア茅の輪を荘らせていただきました。

また、飯野八幡宮様ご協力により、人型を用いた祓いができるよう準備いたしました。

お軸には四月に行われた青年部の全国行事であるナショナルコンファレンス二〇二二のチャリティー展観でご縁を得た大徳寺高桐院剛山和尚の「清流無間断」をかけさせていただきました。

お道具にはこれまでのいわき青年部の先輩方により受け継がれてきたものや、昨年の勉強会にて部員が作成した常磐白水焼の茶碗を数茶碗として使わせていただき、過去から現在までの青年部員の活動の流れを茶席に来ていただいた皆様に知ってもらうことができた茶会でした。

今回の茶会では通常の茶会の準備に加え新型コロナウイルスの対策という以前には無かった対応をこなすはならず、とにかく参加した全ての人が安心して茶席に入れるよう消毒の徹底をさせていただきました。お菓子など直接触れるものは個包装とし、お茶もお盆に乗せて触れる回数を最低限にするなど工夫をさせていただきました。今までにない形の茶会となりましたが、茶席に来ていただいた皆様のご協力と水屋にいた部員達の頑張りにより、茶会後も感染者を出さず茶会を終えられたことに青年部一同胸を撫で下ろしております。

当日は急な暑さに見舞われましたが、そのような状況の中で、足を運んで下さった皆様、本当にありがとうございます。

ました。そして、このような機会をくんだり、いわき青年部の活動を日々支えてくださる親先生方のご高配に感謝申し上げます。

令和五年度の主な行事

- 2月12日(日) 月釜茶会(矢内宗里社中)
- 2月26日(日) いわき市生涯学習プラザ茶室 第29回(令和五年度)定期総会
- 4月29日(土) 30日(日) いわき市文化センター大ホール 研究会・風炉
- 6月10日(土) いわき産業創造館(ラトブ) ふだん着のお茶会
- 7月9日(日) いわき市生涯学習プラザ茶室 研究会・風炉
- 8月27日(日) いわき産業創造館(ラトブ) 定期巡回講習会
- 9月18日(月) いわき市文化センター大ホール 支部茶会
- 11月4日(土) 5日(日) いわき産業創造館(ラトブ) 研究会・炉
- 11月11日(土) いわき産業創造館(ラトブ) ふだん着のお茶会
- いわき市生涯学習プラザ茶室

編集後記

今年(令和五年度)は新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限がない三年ぶりのお正月となりました。

各地では初日の出や初詣など通年の賑わいを取り戻しつつあるようです。

二〇二三年は「癸卯」。

様々な困難を乗り越えた先に、明るい未来に向かって飛躍する一年になりますよう願っております。